

Title	URAに対する大学教員の支援ニーズ
Author(s)	池見, 直俊; 永田, 晃也
Citation	年次学術大会講演要旨集, 32: 900-903
Issue Date	2017-10-28
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10119/14979">http://hdl.handle.net/10119/14979</a>
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

## URA に対する大学教員の支援ニーズ

○池見 直俊, 永田 晃也 (九州大学)

## 1. はじめに

日本の大学に研究支援の高度専門職であるユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター (URA) が誕生してから6年近くが経過した。国は2011年度～2015年度の第4期科学技術基本計画で、「専門知識を活かして研究開発活動全体のマネジメントを担う研究管理専門職 (リサーチ・アドミニストレーター)、研究に関わる技術的業務や知的基盤整備を担う研究技術専門職 (サイエンステクニシャン)、知的財産専門家等を養成、確保する」と言及し、これを具現化するため、2011年に文部科学省がURAの普及事業である「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」を開始した。同事業に採択された17大学は、URAの雇用、URAのスキル標準の作成、URAのための研修プログラム開発等を行い、URAの普及や発展に努めた。

その勢いに拍車をかけるように、2013年には同省の「研究大学強化促進事業」が始まり、本事業に採択された22の大学や大学共同利用機関が研究力強化のためにURAを雇用し活用するようになった。その後、両事業に採択されていない大学も国公私立の区別なく自前でURAを雇用する動きが広がり、現在のような状況となっている。文部科学省の「平成27年度URAシステム整備についての現状」によると、全国の大学等において「URAとして配置」と整理する者の合計人数は830人となっている。

URAは研究支援制度の設計や研究資金獲得の支援等により大学教員を支援しているが、大学教員側から未だに研究支援体制が不十分だという声が上がっており、URAの役割については改善の余地があると考えられる。そこで、支援スタッフに託したい項目、URAから支援を受けた項目、URA以外の人から支援を受けた項目について大学教員へ質問票調査を実施し、その調査結果からURAに対する教員側の支援ニーズを導出する。

## 2. 先行研究

URAに関する研究はまだ日が浅く先行研究は限られているが、URAに必要なスキルやURAの業務分類に関する文献がいくつか存在する。

東京大学が発表した平成25年度科学技術人材養成等委託事業「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備 (スキル標準の作成)」成果報告書では、URAの業務を①大学としての研究関連の分析・企画立案等の業務である「研究戦略推進支援業務 (リサーチ・ディベロップメント関係)」、②外部資金獲得前における外部資金に関連する情報の収集、研究プロジェクトの企画立案支援等の業務である「プレアワード業務」、③外部資金獲得後における研究プロジェクトのマネジメント、予算管理、アウトリーチ等の業務である「ポストアワード業務」、④知的財産権、国際連携等、大学に専門的に担当している組織があり、上記3つの分野に関連する業務である「関連専門業務」の4つに大きく分類した。そして、それらとURAとしてのスキルレベル (初級・中級・上級) を組み合わせ、初級URA型、オールラウンド型、研究戦略・プレアワード特化型、専門特化型の4種類の業務特性を例示した。

高橋・吉岡 (小林) (2016) は、日本の大学における研究資源の獲得、活用の循環とURA機能の関わりを示すフレームワークを導出し、そこからURAを、プレアワード業務、ポストアワード業務、その他業務のうち一部に特化した「専門業務型」、全般的な業務を臨機応変に担当する「ジェネラリスト型」、機関の資源配分と利用効率の最適化を担う「システム最適化人材型」の3類型に分類した。

## 3. ニーズ調査

実際に研究活動を行っている大学教員側はどのような支援を求めているのかを明らかにするため、九州大学の理学系、数理学系組織である大学院理学研究院、大学院数理学研究院、マス・フォア・インダストリ研究所の教員へ質問票調査を実施した。

### 3-1. 調査内容

筆者が設定した支援内容24項目について、支援スタッフに託したい項目、URAから支援を受けた項目、URA以外の人から支援を受けた項目はどれかを調査した。調査は上記部局に所属する教員を対象にして2016年5月7日から2016年10月7日にかけて行われた。調査対象者216人のうち、146人に調査回答を依頼し、125人から有効回答を得た（回収率85.6%）。調査方法については、調査対象者へ電子メールもしくは口頭で質問票調査の回答を依頼した。直接訪問が可能であった調査対象者114人については、訪問時に質問票の回答内容及び質問項目以外の支援内容や研究環境等について追加質問を行った。訪問できなかった調査対象者11人については、電子メールもしくは学内便により質問票を回収した。調査対象者の属性は以下のとおりである。

調査対象者の職位：教授（35.2%）、准教授（34.4%）、講師（4.8%）、助教（25.6%）

調査対象者の研究分野：物理学（24.0%）、化学（23.2%）、地球惑星科学（18.4%）、生物学（15.2%）、数学（19.2%）

### 3-2. 各項目の調査結果

質問票調査の回答結果について、支援スタッフに託したい項目、URAから支援を受けた項目、URA以外の人から支援を受けた項目の回答を集計したものが表1である。

支援スタッフに託したい項目については、回答数の多い項目から順に、「シンポジウム等開催のコーディネーション」が69件（55.2%）、「競争的資金の管理や報告書の作成」が60件（48.0%）、「留学生や外国人研究者のケア」が56件（44.8%）であった。

また、URAから支援を受けたことのある項目という観点から上記3項目を見ると、回答数はいずれも0件であった。

さらに、URA以外の人から支援を受けたことのある項目という観点から同様の3項目を見ると、「シンポジウム等開催のコーディネーション」は16件（12.8%）、「競争的資金の管理や報告書の作成」が33件

（26.4%）、「留学生や外国人研究者のケア」が23件（18.4%）であり、それぞれ回答数の多い順から8位、2位、6位であった。

### 3-3. 各項目の関連分析

これまでに支援を受けたことがあるかどうかと支援を受けたいかどうかの関連を明らかにするため、URAから支援を受けた項目と支援スタッフに託したい項目の関連、URA以外の人から支援を受けた項目と支援スタッフに託したい項目の関連のそれぞれを分析した。

表1 支援内容と現状

支援内容	支援スタッフに託したい項目	(N=125)	
		URAから支援を受けたことのある項目	URA以外の人から支援を受けたことのある項目
競争的資金に関する情報の収集	55 (44.0%)	3 (2.4%)	25 (20.0%)
競争的資金に関する申請書内容の編集	54 (43.2%)	6 (4.8%)	27 (21.6%)
競争的資金の管理や報告書の作成	60 (48.0%)	0 (0.0%)	33 (26.4%)
共同研究者との連絡調整	16 (12.8%)	0 (0.0%)	9 (7.2%)
学際的プロジェクトの連絡調整	27 (21.6%)	4 (3.2%)	7 (5.6%)
企業や自治体等との連絡調整	24 (19.2%)	2 (1.6%)	8 (6.4%)
教員同士の出会いの場の提供	11 (8.8%)	1 (0.8%)	7 (5.6%)
研究の進捗管理	4 (3.2%)	0 (0.0%)	8 (6.4%)
研究室の物品管理	50 (40.0%)	0 (0.0%)	28 (22.4%)
実験機器のメンテナンスや学生への操作指導	39 (31.2%)	0 (0.0%)	18 (14.4%)
研究に関係する参考文献の検索	12 (9.6%)	0 (0.0%)	9 (7.2%)
英語論文の校閲	54 (43.2%)	0 (0.0%)	39 (31.2%)
発表用スライド内容の編集	17 (13.6%)	0 (0.0%)	10 (8.0%)
動物実験、遺伝子組換え実験等の届出	14 (11.2%)	0 (0.0%)	2 (1.6%)
シンポジウム等開催のコーディネーション	69 (55.2%)	0 (0.0%)	16 (12.8%)
研究成果の広報活動（プレスリリースなど）	50 (40.0%)	3 (2.4%)	14 (11.2%)
研究成果の特許化・事業化	29 (23.2%)	3 (2.4%)	8 (6.4%)
海外の大学との協定締結に関する交渉	28 (22.4%)	1 (0.8%)	7 (5.6%)
留学生受入促進活動	23 (18.4%)	0 (0.0%)	9 (7.2%)
留学生や外国人研究者のケア	56 (44.8%)	0 (0.0%)	23 (18.4%)
出前講義や公開講座等のコーディネーション	27 (21.6%)	0 (0.0%)	11 (8.8%)
同窓生のネットワーク構築	10 (8.0%)	0 (0.0%)	3 (2.4%)
教員業績評価の資料収集	33 (26.4%)	0 (0.0%)	8 (6.4%)
中期目標・中期計画等部局評価の資料収集	31 (24.8%)	1 (0.8%)	9 (7.2%)

表2 URA から支援を受けた項目と支援スタッフに託したい項目の関連

(N=125)

支援内容	URAから支援を受けたことの有無		URAから支援を受けたことがあり、支援スタッフに託したい(C)	URAから支援を受けたことがなく、支援スタッフに託したい(D)	C/A	D/B
	あり(A)	なし(B)				
競争的資金に関する情報の収集	3	122	3	52	100.0%	42.6%
競争的資金に関する申請書内容の編集	6	119	5	49	83.3%	41.2%
競争的資金の管理や報告書の作成	0	125	0	60	-	48.0%
共同研究者との連絡調整	0	125	0	16	-	12.8%
学際的プロジェクトの連絡調整	4	121	2	25	50.0%	20.7%
企業や自治体等との連絡調整	2	123	2	22	100.0%	17.9%
教員同士の出会いの場の提供	1	124	0	11	0.0%	8.9%
研究の進捗管理	0	125	0	4	-	3.2%
研究室の物品管理	0	125	0	50	-	40.0%
実験機器のメンテナンスや学生への操作指導	0	125	0	39	-	31.2%
研究に関係する参考文献の検索	0	125	0	12	-	9.6%
英語論文の校閲	0	125	0	54	-	43.2%
発表用スライド内容の編集	0	125	0	17	-	13.6%
動物実験、遺伝子組換え実験等の届出	0	125	0	14	-	11.2%
シンポジウム等開催のコーディネーション	0	125	0	69	-	55.2%
研究成果の広報活動(プレスリリースなど)	3	122	2	48	66.7%	39.3%
研究成果の特許化・事業化	3	122	1	28	33.3%	23.0%
海外の大学との協定締結に関する交渉	1	124	1	27	100.0%	21.8%
留学生受入促進活動	0	125	0	23	-	18.4%
留学生や外国人研究者のケア	0	125	0	56	-	44.8%
出前講義や公開講座等のコーディネーション	0	125	0	27	-	21.6%
同窓生のネットワーク構築	0	125	0	10	-	8.0%
教員業績評価の資料収集	0	125	0	33	-	26.4%
中期目標・中期計画等部局評価の資料収集	1	124	0	31	0.0%	25.0%

表3 URA 以外の人から支援を受けた項目と支援スタッフに託したい項目の関連

(N=125)

支援内容	URA以外の人から支援を受けたことの有無		URA以外の人から支援を受けたことがあり、支援スタッフに託したい(C)	URA以外の人から支援を受けたことがなく、支援スタッフに託したい(D)	C/A	D/B
	あり(A)	なし(B)				
競争的資金に関する情報の収集	25	100	17	38	68.0%	38.0%
競争的資金に関する申請書内容の編集	27	98	22	32	81.5%	32.7%
競争的資金の管理や報告書の作成	33	92	23	37	69.7%	40.2%
共同研究者との連絡調整	9	116	2	14	22.2%	12.1%
学際的プロジェクトの連絡調整	7	118	4	23	57.1%	19.5%
企業や自治体等との連絡調整	8	117	5	19	62.5%	16.2%
教員同士の出会いの場の提供	7	118	1	10	14.3%	8.5%
研究の進捗管理	8	117	2	2	25.0%	1.7%
研究室の物品管理	28	97	17	33	60.7%	34.0%
実験機器のメンテナンスや学生への操作指導	18	107	9	30	50.0%	28.0%
研究に関係する参考文献の検索	9	116	5	7	55.6%	6.0%
英語論文の校閲	39	86	23	31	59.0%	36.0%
発表用スライド内容の編集	10	115	3	14	30.0%	12.2%
動物実験、遺伝子組換え実験等の届出	2	123	1	13	50.0%	10.6%
シンポジウム等開催のコーディネーション	16	109	12	57	75.0%	52.3%
研究成果の広報活動(プレスリリースなど)	14	111	9	41	64.3%	36.9%
研究成果の特許化・事業化	8	117	6	23	75.0%	19.7%
海外の大学との協定締結に関する交渉	7	118	6	22	85.7%	18.6%
留学生受入促進活動	9	116	5	18	55.6%	15.5%
留学生や外国人研究者のケア	23	102	17	39	73.9%	38.2%
出前講義や公開講座等のコーディネーション	11	114	4	23	36.4%	20.2%
同窓生のネットワーク構築	3	122	1	9	33.3%	7.4%
教員業績評価の資料収集	8	117	7	26	87.5%	22.2%
中期目標・中期計画等部局評価の資料収集	9	116	6	25	66.7%	21.6%

URA から支援を受けた項目と支援スタッフに託したい項目の関連をまとめたものが表 2 である。「競争的資金の管理や報告書の作成」、「シンポジウム等開催のコーディネーション」、「留学生や外国人研究者のケア」の 3 項目は、「URA から支援を受けたことがなく、かつ支援スタッフに託したい項目」の中でそれぞれ 48.0% (全項目中 2 位)、55.2% (同 1 位)、44.80% (同 3 位) と全てがトップ 3 に位置している。

次に、URA 以外の人から支援を受けた項目と支援スタッフに託したい項目の関連をまとめたものが表 3 である。URA 以外の人から支援を受けたことがない人のうち、支援スタッフに同項目を託したいと答えた人の割合は、「競争的資金の管理や報告書の作成」で 40.2% (全項目中 2 位)、「シンポジウム等開催のコーディネーション」で 52.3% (同 1 位)、「留学生や外国人研究者のケア」は 38.2% (同 3 位) でこちらも 3 項目が全てトップ 3 に位置している。

#### 3-4. 追加調査

質問票調査回答者のうち、直接訪問が可能であった 114 人に訪問時に質問票の回答について追加質問を行った。支援スタッフに託したい項目として「シンポジウム等開催のコーディネーション」を選択した理由について、国際シンポジウムを開催したいという希望はあっても、それに付随する業務が膨大でスタッフも少ないため、開催する意欲が失われてしまうという意見が多数あった。また、講演内容の調整、海外からのゲストスピーカーとの連絡調整や航空券手配、費用支出における大学の会計規則との擦り合わせ、海外からのゲストスピーカーへ支払う謝金の免税手続き等の外部業者へ委託できない特殊な業務の負担が大きいとのことであった。単純作業を行う事務スタッフはいるので、実施責任者の代わりに事務スタッフの指揮をとることができる人材が必要という意見も多数あった。

#### 4. インプリケーション

以上の分析結果から、支援項目のうち、「競争的資金の管理や報告書の作成」、「シンポジウム等開催のコーディネーション」、「留学生や外国人研究者のケア」の 3 項目については、支援を受けることを希望しているにもかかわらず実際に支援を受けられていない教員の割合が高く、重点的に支援すべき項目であると言える。

とりわけ、「シンポジウム等開催のコーディネーション」については、参加者の研究内容をある程度理解しつつ、大学の各種規則にも精通し、参加者や事務スタッフ等のあらゆる関係者をつなげていくという総合的な能力が求められる。このような役割を専門的に担う人材は既存の大学組織には存在しなかったため、URA がこのニーズに応え、新たな研究交流の機会の創出することが望ましい。

文部科学省科学技術・学術政策研究所 (2015) は、研究の国際化に伴い世界で国際共著論文が急増しているが、日本はこの変化に充分対応出来ていないと指摘している。日本開催の国際シンポジウムが増加し、日本の研究者と海外の研究者の交流機会が促進すれば、国際共著論文の増加が期待できる。

#### 5. 結語

URA の役割は、大学の規模、大学教員の専門分野、組織上の位置づけによって異なる。しかしながら、科研費申請のような幅広い教員に共通する事項を見出し、その中で教員側からのニーズが高い事項を URA が重点的に支援することは、URA の認知度を向上させ、その存在価値を高める効果が期待できることから、教員側のみならず URA 側にとっても重要な役割であるといえる。

今回の調査結果は九州大学の理学系部局という限定的なものであるが、他大学の理学系部局、もしくはあらゆる研究分野においても見られる傾向であるかを検証することが今後の課題となる。

#### 参考文献

- 高橋真木子・吉岡 (小林) 徹 (2016) 「日本の URA の役割の多様さとその背景、総合的な理解のためのフレームワーク」『研究 技術 計画』Vol. 31, No. 2, 2016
- 東京大学 (2014) 「平成 25 年度科学技術人材養成等委託事業「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備 (スキル標準の作成)」成果報告書」
- 文部科学省科学技術・学術政策研究所 (2015) 「科学研究のベンチマーキング 2015 -論文分析でみる世界の研究活動の変化と日本の状況-」
- 文部科学省「平成 27 年度 URA システム整備についての現状」  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/science/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/05/11/1316577\\_03.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/11/1316577_03.pdf)